

2020.7-9

資産運用状況
Quarterly Report

金属事業企業年金基金

用語の解説

- 修正総合利回り

資産の運用成果を評価する評価基準の一つで、簿価ベースの平均残高利回りである総合利回りの分母に前期末の評価損益および未収収益を加えることによってより時価に近い金額に修正した収益率。

計算式：修正総合利回り(%) = (実現損益 + 未収収益増減 + 評価損益増減) / (元本平均残高 + 前期末未収収益 + 前期末評価損益) × 100

- ベンチマーク

運用成果を評価する際に相対比較の対象となる基準指標のことをいい、市場の動きを代表する指標を用います。

国内債券・・・NOMURA-BPI総合

野村証券金融工学研究センターが算出・公表する日本の公募債券流通市場全体の投資収益指数で、1983年(昭和58年)12月末を100として指数化したもの。

国内株式・・・TOPIX(配当込み)

東京証券取引所が東証一部に上場する国内株の全銘柄の時価総額を基に算出する株価指数で、1968年(昭和43年)1月4日を100として算出したもの。

外国債券・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本)

ロンドン証券取引所グループのFTSEラッセルが算出・公表する世界主要国の国債の投資収益指数で、1984年(昭和59年)12月末を100として算出したもの。

外国株式・・・MSCI-KOKUSAI

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI Inc)が算出・公表する国際的な株価指数で、日本を除く先進国22ヵ国の上場企業の株価指数で構成。

2020年度第2四半期運用状況

2020年度第2四半期の内外株式市場は、7月は、新型コロナウイルス感染が広がる中、金融緩和の継続、ワクチン開発の進展、米ハイテク企業の株高といったプラス要因と、主要経済指標の悪化、米中対立の再燃懸念などのマイナス要因によって国内株式は下落した一方、外国株式は小幅ながら上昇するなど、各国の相場はまちまちの展開となりました。

8月の国内株式は、米ハイテク企業株高を受け中旬にかけ上昇した後、下旬にかけては戦後最大の落ち込みを記録したGDPなどが下落要因となったものの米国株高が下支えとなり、高値圏で横ばいで推移しました。外国株式は、米主力ハイテク企業の株高、コロナワクチンの実用化期待などを背景に月間を通じ上昇基調で推移しました。

9月は、国内株式はほぼ横ばいで推移し、外国株式は、米ハイテク株の利益確定売りの広がりや、米国の追加経済対策を巡る与野党協議の難航、欧州の新型コロナウイルス感染再拡大などを背景に下落しました。

一方、債券市場は、国内金利は低下基調で推移し、米国金利はほぼ横ばいで推移しました。なお、為替は、期中ドル/円は円高・ドル安、ユーロ/円は円安・ユーロ高となりました。

このような市場環境の下、当基金の第2四半期における収益率は2.04%、4月から9月までの年度通期では6.13%となりました。

	2019年度	2020年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	(注) 5.24	4.22	2.04			6.13
収益額(千円)	96,326	104,529	57,375			161,904
期中元本平均残高(千円)	1,838,589	2,474,935	2,809,732			2,643,248
期末運用資産額(千円)	1,927,575	2,893,778	3,026,347			3,026,347

(注) 収益率は修正総合利回り。2019年度決算上の時価ベース利回りは5.67%です。

1. 2020年度 第2四半期運用環境

【各市場の動き（7月～9月）】

国内債券：7月の10年国債利回りは、新型コロナウイルスの感染者増加が続いたことによるリスク回避目的の買いや、米長期金利の低下などを受け0.03%から0.01%に低下（債券価格は上昇）しました。8月は、国内株式の上昇を受けてリスク回避姿勢が弱まったことや、新型コロナウイルスのワクチン開発を巡る報道を背景に米長期金利が上昇したことなどを受け0.05%に上昇（債券価格は下落）しました。9月は、需給改善観測の広がりや、為替の円高懸念によるリスク回避の動きなどから低下基調で推移し、月末は0.02%で終わりました。

国内株式：7月は、新型コロナウイルスの感染者増加が続いたことで緊急事態宣言の再発出が懸念された一方、ワクチン開発の進展期待などから一進一退の推移が続き、月末にかけては4-6月期決算発表を受けた業績悪化や円高の進行を背景に下落しました。8月は、戦後最大の落ち込みを記録したGDPなどが下落要因となったものの米国株式の上昇や円高・ドル安の一股を受け日経平均は2万3100円台まで上昇しました。9月は、経済活動再開への期待の高まりなどから上旬には日経平均が新型コロナウイルス感染拡大に伴う急落前の水準まで回復しましたが、その後は米欧株式の下落や円高の進行などから一進一退の値動きが続き、日経平均は2万3100円台後半で終わりました。

外国債券：米国10年国債利回りは、7月は追加財政支援策を巡る与野党協議の難航から景気回復の遅れが懸念されたことや、FRBによる低金利政策の長期化が意識されたことで0.66%から0.53%に低下しました。8月は、新型コロナウイルスのワクチン開発進展への期待やFRBが目標の2%を超える物価上昇を容認する新指針を発表したことによる景気回復期待の高まりから0.71%に上昇しました。9月は、ほぼ横ばいで推移し0.68%で終わりました。為替は、期中ドル/円は円高・ドル安、ユーロ/円は円安・ユーロ高で推移しました。

外国株式：米国株式は、7月は、大型ハイテク株が堅調に推移した一方、追加財政支援策を巡る与野党協議の難航から伸び悩みNYダウは2万6400ドル台前半と小幅な上昇となりました。8月は、景気指標の改善や新型コロナウイルスのワクチン開発の進展期待、主力ハイテク企業の株高、低金利政策の長期化期待などを背景にNYダウは2万8400ドル台まで上昇しました。9月は、8月に急上昇したハイテク株の利益確定売りや、追加経済対策を巡る与野党協議の難航による米国景気の先行きに対する警戒感の高まり、新型コロナウイルスの感染再拡大を受けた欧州株式の下落などを受け下落基調で推移し、2万7700ドル台後半で終わりました。

◇参考指標

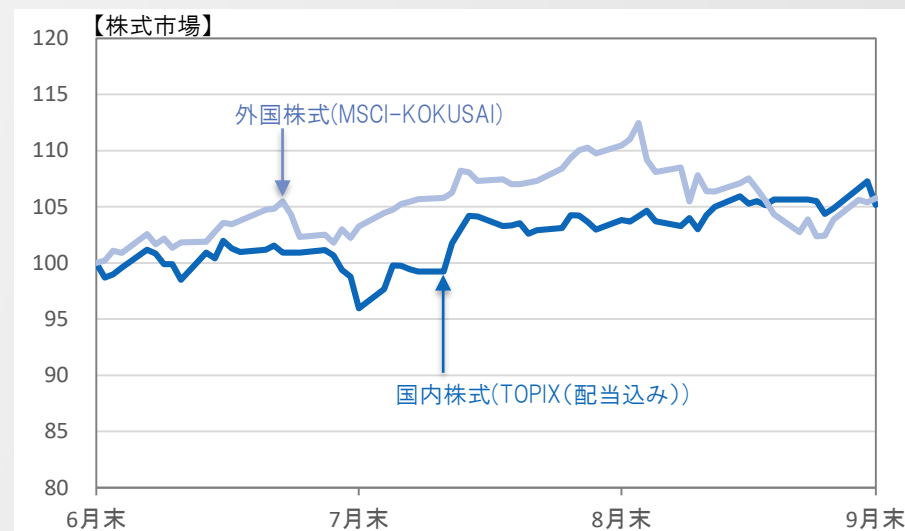
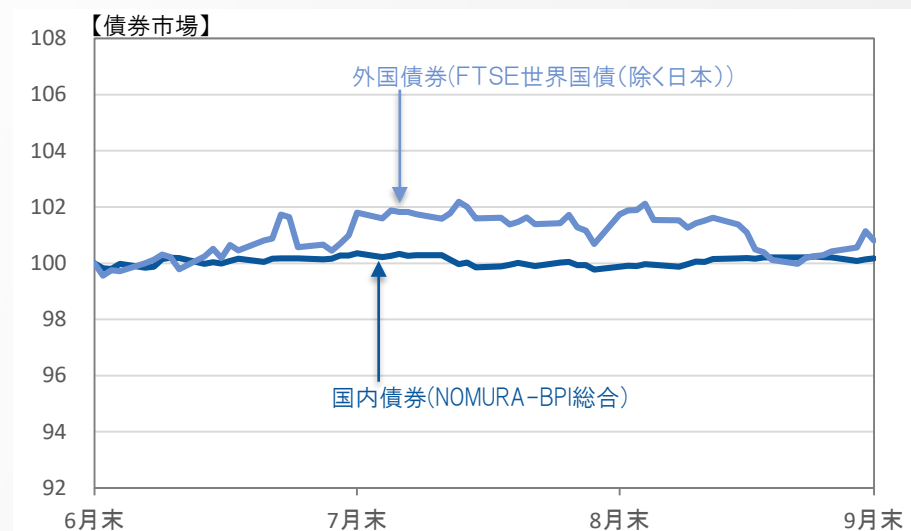
		2020年3月末	2020年6月末	2020年7月末	2020年8月末	2020年9月末
国内債券	10年国債利回り (%)	0.01	0.03	0.01	0.05	0.02
国内株式	TOPIX配当込み (ポイント)	2,167.60	2,411.45	2,314.39	2,503.59	2,536.14
	日経平均株価 (円)	18,917.01	22,288.14	21,710.00	23,139.76	23,185.12
外国債券	米国10年国債利回り (%)	0.67	0.66	0.53	0.71	0.68
	ドイツ10年国債利回り (%)	-0.47	-0.45	-0.52	-0.40	-0.52
外国株式	NYダウ (ドル)	21,917.16	25,812.88	26,428.32	28,430.05	27,781.70
	ドイツDAX (ポイント)	9,935.84	12,310.93	12,313.36	12,945.38	12,760.73
為替	ドル/円 (円)	107.96	107.89	105.73	106.05	105.53
	ユーロ/円 (円)	118.45	121.17	125.02	126.83	123.75

◇ベンチマーク収益率

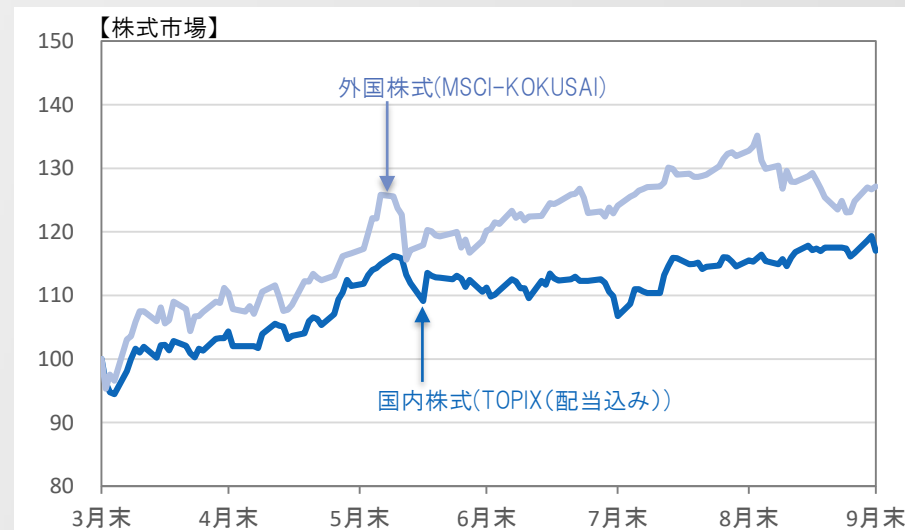
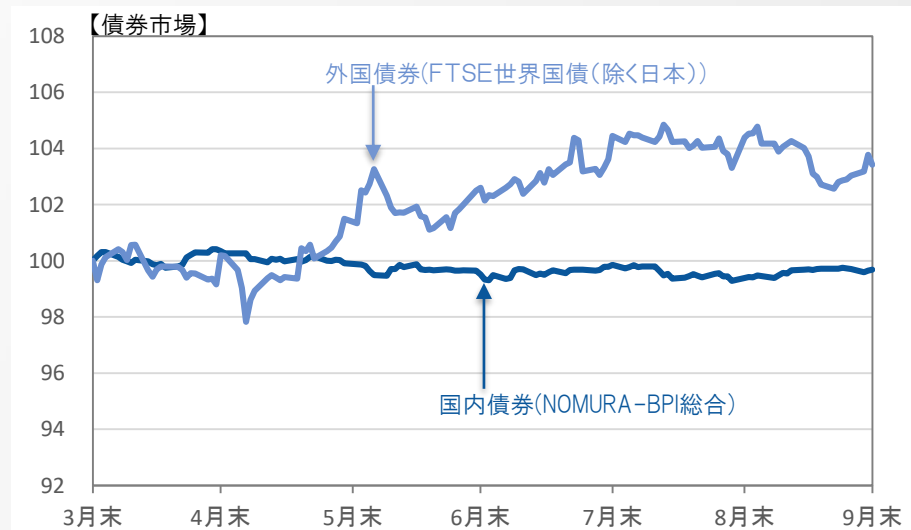
	2020年7月～9月
国内債券 NOMURA-BPI総合	0.17%
国内株式 TOPIX(配当込み)	5.17%
外国債券 FTSE世界国債(除く日本)	0.81%
外国株式 MSCI-KOKUSAI	5.77%

(注) ベンチマーク収益率は、期中のキャッシュフローを考慮しない収益率

市場ベンチマークの推移(2020年度 第2四半期) 6月末=100とした市場の動き



市場インデックスの推移(2020年度 通期) 3月末=100とした市場の動き



2. ファンド別資産クラス別収益率・収益額の状況

(1) パッシブ資産

	2019年度	2020年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	5.69	4.74	2.02			6.64
国内債券	0.40	-0.67	0.19			-0.41
ヘッジ外債	6.20	1.21	0.60			1.75
国内株式	16.19	12.03	5.18			17.10
外国債券	4.61	3.07	0.82			3.75
外国株式	19.66	16.86	5.73			22.35
短期資産	-0.02	-0.04	-0.01			-0.07

	2019年度	2020年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	93,020	102,271	52,312			154,583
国内債券	2,118	-705	233			-471
ヘッジ外債	10,064	15,114	9,133			24,247
国内株式	40,482	18,980	10,891			29,871
外国債券	5,746	3,258	1,031			4,289
外国株式	34,688	65,689	31,029			96,718
短期資産	-77	-66	-5			-71

(2) オルタナティブ資産

	2019年度	2020年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	1.52	0.70	1.58			1.14
みずほ信託	2.88	0.00	2.24			2.24
第一生命	—	0.60	0.35			0.95
りそな銀行	-0.08	1.66	1.99			3.66

	2019年度	2020年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	3,306	2,258	5,063			7,321
みずほ信託	3,388	0	2,709			2,709
第一生命	—	600	351			951
りそな銀行	-82	1,658	2,003			3,661

(参考) オルタナティブ資産のプロダクト

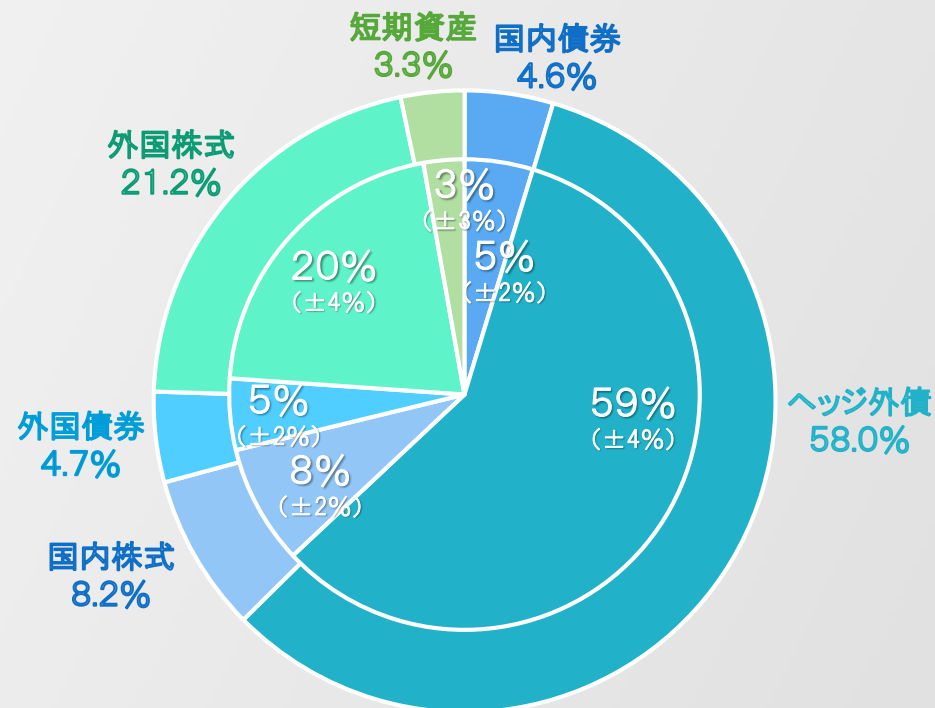
みずほ信託：私募REIT（丸紅プライベートリート），第一生命：マルチアセット（第2総合口），りそな銀行：マルチアセット（総合口N）

3. 運用資産額・構成割合

(1) パッシブ資産

	資産額 (千円)	構成割合	基本ポートフォリオ		乖 離
			中心値	許容乖離幅	
国内債券	123,432	4.6%	5%	±2%	-0.4
ヘッジ外債	1,564,821	58.0%	59%	±4%	-1.0
国内株式	221,259	8.2%	8%	±2%	+0.2
外国債券	126,999	4.7%	5%	±2%	-0.3
外国株式	572,221	21.2%	20%	±4%	+1.2
短期資産	89,424	3.3%	3%	±3%	+0.3
合 計	2,698,156	100.0%	100.0%		—

(注) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。



内側: 基本ポートフォリオ (カッコ内は乖離許容幅)
外側: 2020年9月30日時点

(2) オルタナティブ資産

	資産額(千円)
みずほ信託	123,661
第一生命	100,951
りそな銀行	103,579
合 計	328,191

(3) 資産全体

	資産額(千円)
パッシブ資産	2,698,156
オルタナティブ資産	328,191
合 計	3,026,347